



笑顔輝く新居浜人を紹介

vol.76

「プニ」から生まれた探求心

県立新居浜南高等学校 気泡科学研究班

塚拓海^{たくみ}さんは「みんなが集まり、話をしながら行う実験が楽しかった」と笑顔を見せました。



10月に行われた第64回日本学生科学賞県審査会で、南高気泡科学研究班の「気泡生成時の発生音に関する研究」が最優秀賞（県知事賞）を受賞しました。

南高では自然科学系列の授業の一環で探究活動（研究）を行っています。同研究班のメンバーは、「元々、ものづくりの分野に興味があった」と

いう藤森^{とうま}颯真^{さつま}さんら4人。コツコツと進めてきた研究が、「普通なら見過ごしてしまうような現象を見つけ、緻密かつ実証的に研究している」と絶賛されました。

着目したのは気泡が発生するときの「プニ」という音です。きっかけはメスシリンダーへ水を注いだとき、不思議な音を聞いたこと。「この音は泡が出ているのでは？」。気泡を定点カメラで撮影し、泡の大きさや発生音を分析していきました。

「とにかく実験が大変だった！」と口をそろえる4人。北條^{きたじま}拓^{たく}さんは「いろいろな実験を何度も行い、データの解析をした。データがきちんと取れていない場合はやり直し。とても時間がかかった」と苦労を明かします。

平日の授業だけでなく、休日に登校することも。簡単にはいかない研究でしたが、八

そしてついに、4人は原因を突き止めます。水中で気泡が伸縮するときに発生する音が「プニ」のもとであり、その音の高さは泡の形に左右されていました。

協力し合い、つかみ取った県知事賞。「自分たちがやってきたことが認められた、やった！という達成感があった」と、齊藤^{さいとう}竜久^{りゅうきゅう}さんは喜びをかみ締めました。

メンバーは全員3年生。4人が今、見据えているのは卒業後の自分たちです。「この研究の続きはできなくなるが、2年間ここで培った技術や力を生かし、世の中に出たい新しいことを見つけていきたい」。齊藤さんは言葉に力を込めました。

「プニ」から生まれた探究心。それを胸に飛躍する、4人の姿が目に見えます。



気泡科学研究班のメンバーと手作りの気泡模型
(左から八塚さん、北條さん、藤森さん、齊藤さん)

広告欄